

**調査期間** 2015年10月1日～継続中  
**所在地** 秦野市柳川  
**時代** 縄文、弥生、奈良・平安、中世近世  
**調査原因** 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査  
**遺跡位置** 小田急小田原線渋沢駅の北西方約3kmに位置する。



### 主な調査成果

主に平安時代、縄文時代の遺構や遺物が発見されています。平安時代では、竪穴住居が3軒見つかっています。そのうちの1軒からは、土師器の甕や坏と共に鉄製の鋤先（すきさき）が完形で出土しました。鉄製品は大変貴重であり、一つの集落でも所有していた人は限られていました。また、再び铸造（ちゅうぞう）することもあるため、完形で出土する例は少なく、極めて希少な資料です。縄文時代では、中期の住居跡や埋甕が発見されています。住居跡は地すべりの影響を受けて、壁や床が南北方向にずれている状況が確認できました。また、調査区の南東斜面からは前期の土器が集中して出土しました。



遺跡近景（南から）



奈良・平安時代の竪穴住居跡



縄文時代の竪穴住居跡



縄文時代の炉跡  
(地すべりで土器の縁の部分がずれている)